

ジョブスタジオ伊勢の取り組み

伊勢産ワインぶどうの栽培とワイン醸造への挑戦

「障がいがあっても、自分たちで仕事をつくり、地域を支えよう」。
福祉と農業を連携させて、ブルーベリーやブラックベリー、
ワインぶどうなどの栽培・加工・販売を行うジョブスタジオ伊勢。
その取り組みは多くの人の共感とサポートを呼び、
伊勢市の観光産業への貢献にまで幅を広げようとしている。

代表の岩崎直明さん。

一般的に就労支援施設は下請け業務が多いけれど、ここでは自社栽培、自社加工にこだわって、やってみようことを実現しようと、スタッフ一丸となつて努力する。

スーパの店頭へ、ブルーベリー



大きくて甘い
ブルーベリーを
仕分け中

に込めた。

屋外の就労場として宮川下流域に
広い農地がある。ブルーベリーやブ
ラックベリー、ブドウの栽培を行い、
じゃがいもやサツマイモも畑に植わ
る。自分たちで育てた農産物には愛
着が湧き、販売への意欲にもつなが
る。今後はジャム製造やワイン醸造
など、地域の特産物になるよう加工
にもチャレンジ。福祉と農業、それ
に観光との連携を目指す。

「仕事を分担し、農場だけと決め
てしまえば、その方が効率はいいの
でしようけど、それでは福祉施設と
しての意味がない。さまざまなこと
ができるようになってほしいので、
基本的に担当分けはしていません。
彼らが将来、自分で生きていける一
歩をつくれるかどうかが大切なので
す」と、ケアプロフェッショナル



「伊勢わいん特区」認定のブドウ畑で、ケアプロフェッショナルの岩崎直明社長（左）と中里佳寛副社長。障がいの雇用環境を改善していこうと奮闘する



ブドウの実と梗（茎）を分ける作業。この後、実を潰して、果汁を搾り取り、ワインを仕込む。地ワインの醸造で、観光産業にもつながる



**自分たちで仕事をつくる
ジョブスタジオ伊勢の支援**
収穫したてのブルーベリーを出荷
するための仕分け中に、「人差し指
で触っただけで分かるよ」と商品と
しての見極めを得意げに話す寛太さ
ん。パックに詰め終えた翼さんは「た
くさん売れて、いろんな人に食べて
ほしい」と笑みをこぼす。コッコツ
と作業にあたるのは障がいのあるメ
ンバーたち。集中力が切れそうにな
ると「今日は作業早く進んでるよ」
と指導員が声をかけて見守る。



ワインぶどうを植樹する隆介さん。全てのはじまりはここから

が並んだ。スーパーサンシ株式会社
農産課で仕入れを担当する齋藤千浩
さんは、「大粒でジューシー、甘さ
も十分です。大きいと味がぼやけて
しまうことが多いのですが、ジョブ
スタジオ伊勢のものは味もいい。店
頭に並ぶのを待つリピーターさんも
います」と声を弾ませ、地域福祉と
関わる商品の販売に、手応えを感じ
ている。

障がいがある子どもたちの できることを増やす

ケアプロフェッショナルは、高齢
者などのリハビリデイサービス「み
んなの家」をはじめ、障がいの放
課後等デイサービス「放課後の家」
も運営している。こうした背景のな
か、発達遅延や障がいがある子ど
もの成長を支援し、学齢期を終えた
後も、誇りを持って、生き生きと働
ける場所を作りたいと農場を開園し
た。農場では放課後の家に通う子
たちを招待し、ジョブスタジオ伊勢
のメンバーが収穫を教えるなど、社会
への参画を促している。



「放課後の家」の生徒が慎重に収穫作業体験



機械の扱い方の指導を受けて、草刈り作業をする慎乃祐さん



1. 森北さんはトラクターなどで作業をサポート
2. 取り組みに共感し駆けつけてくれる友人の松本さん、堀畑さん
3. アコヤ貝を堆肥としてリサイクルすれば、資源の循環にもつながる

感謝すれば、森北さんは「荒れた土
地は草が生えるだけじゃなくて、木
も大きくなって鬱蒼とし、テレビな
どが不法投棄される場合も。こうや
って畑としてよみがえったのはうれ
しいことです」と返す。

農業と福祉が連携した取り組みは、
伊勢市にとっても期待値の大きい動
きであり、今年3月末の「伊勢わい
ん特区」認定がジョブスタジオ伊勢
の機運を高めている。特区認定によ
り、伊勢市内でワインぶどうを原料
とした果実酒を製造する場合、酒税
法の最低製造数量基準が、年間6キ
ロリットルから2キロリットルへ引
き下げられるからだ。

「伊勢には日本酒や焼酎、ビール
に地物がありますが、ワインはなか
ったんですね。外国人観光客の方
にも喜ばれますし、伊勢のブランド
として定着できれば、その環境整備
の一つに、特区認定の取得が必要と
判断しました」と話すのは、伊勢市
産業観光部の宮本晃理事。また、伊
勢市議会議員の宮崎誠さんも「障が
いのある我が子の一父親として岩崎
さんの熱意に惹かれ、自分も何かで
きないかと賛同しました。自立を手
助けし、農福連携から観光産業にも
携わること、ここで働けて良かつ
たと思える事業になれば」と話す。

また、この取り組みに共感した御
本製菓は、畑の土壌改良にカルシ
ウム豊富なアコヤ貝の貝殻を提供し
ている。「障がいがある人々の仕事
づくりや伊勢の特産品づくり、それ
にSDGsにも貢献し、関わることで
幸せになれるプロジェクトです」。



左から齋藤さん、森北さん、宮本理事、岩崎社長、前山取締役、宮崎議員、御本製菓 松本本部長

今後おいしいものを作れば、動き
は加速していくでしょう」と同社の
取締役・前山薫さん。
岩崎さんの福祉にかける思いを軸
に多くの人が繋がり、連携の新しい
風が吹いている。



(株)ケアプロフェッショナル

伊勢市村松町1375-6

☎0596-38-1550

http://care-pro.co.jp

